

第17回神戸女学院大学 絵本翻訳コンクール
奨励賞
活水高等学校3年
古澤ひなたさん

『しずかに、いのち』

しずかに いのちよ しずかに
いけのみなもも しんとして

そうすれば なかのおさかなが
すいすい およぐのが みえてくる

くもも はっぱも ゆらゆらゆらゆら

すやすやすや……

ちいさな にわのかたつむりみたいに
おひさまのなかで うとうとうと

そうすれば そのかげが
もっともっと なが〜く みえるかも……

（あらら！ ながすぎちゃった！）

みて、みて、みて！
あそこにいるのは だれだろう？
くさのあいだで もぞもぞもぞ

じっとして ゆっくりね——
あんまり いそいじゃにげちゃうよ！

みえた？
あのはすのはっぱから
するりと おりた かげを。

あっ、あれは はずかしがりやの
ちいさな かめさん！
ちっちゃな オレンジのスケートぐつを
だいじそうに はいているよ！

かめが スケートをするの？

もちろん！　とってもじょうずにね。
でもね……

スピードスケートで
いちばんになるのは
ちょっと　むずかしいかもしれない！

「こんにちは」
「やあ！」

さあ、きのうえの　はっぱを
いっしょに　みあげてみてよう。

そよそよそよと　ふくかぜに
ゆらゆらゆらって　ゆれているね。

はっぱが　うごくおと
きこえるかな？

ひらり、ひらり……
えだから　はっぱが　はなれるおとまで。

ひゅるるるるる～！

そして　はっぱのむこうには
どこまでも　ひろがる　おおきなおそら。

もしも　おそらが　うたうなら
どんなおうたを　うたうかな？

ド　レ　ミ　ファ　ソ　ラ　シ　ド♪

しずかに　いのちよ　しずかに

おさらのうえの
くだものみたいに。

そうしたら　きっと
なつのりんごの
ぶーんという　はなうたが

きこえてくるかもしれないよ。

なしも いっしょに
ぺちやくちゃ ペちやくちゃ
なしらしい おしゃべりをしているよ！

ほんとうだよ。
バナナだって おうたがじょうず。

きいろに オレンジ、
ピンクに それから あおまで！

あまくて カラフルな
うたを うたうんだ♪

しーーーーっ
いのちよ しずかに。

ねずみさんみたいに
そーっと そーっと……

そうしたら ちいさなあしが
とことこ とことこ
おうちのなかを おどるように

そして おそとへ
かけていくおとが
きこえてくるかもしれないよ。

すやすやすや……

しずかに いのちよ しずかに
ねむっているときの からだみたいに。

そうすれば こころのなかで
どくん どくんと
うごいているものに きづくはず。

それは いつでも おきていて――

どくん どくん
どくん どくん！

こんどは どうか？

「なにもないおと」も きこえる？

しーんと しずかななかにも
なにかが ある。

それって……
もしかして あなたかな？

しずかに いのちよ しずかに
あさやけが はじまるころ。

あさのおうたが きこえたら
おひさまのひかりを
きっと かんじられるよ。

さあ、ちょっと とまって
くんくん してみよう。

このほんの ページのにおい、
わかるかな？

それとも……

いぬの くちびるの におい？

いぬの くちびる！？

「こんにちは！」

いぬにとっては
どのにおいも みんなちがう。
ひとつひとつが とくべつなんだ。

だから まちのなかにいても
あなたを きっと みつけられる。

あなたは どんなにおいを
しているのかな？

はるになったら
ざあざあ ふるあめの におい。

そして